

第 69 回 美術史学会全国大会 プログラム

5月27日(金) 筑波大学大学会館 受付 09:00～ 3階「ホワイエ」
研究発表(午前 10:00～12:00)

〈分科会1〉 3階「ホール」

- 10:00-10:40 《ゲネレオス群像》の再解釈 高橋 翔
—サモスにおける女神ヘラ信仰と彫像制作— 筑波大学
- 10:40-11:20 『ビブル・モラリゼ』(オックスフォード=パリ=ロンドン版)における「イ 竹田 伸一
コノクラスム」と「未完成」の問題 —偶像と青銅の蛇をめぐって— 名古屋大学
- 11:20-12:00 ラクイラ近郊フォッサ、サンタ・マリア・アド・クリプタス聖堂北壁装飾 桑原 夏子
—聖母晩年伝と終末思想— フィレンツェ大学

〈分科会2〉 3階「国際会議室」

- 10:00-10:40 近代における絵巻復興 塩田 釈雄
—前田青邨筆「御輿振」についての考察— 茨城県天心記念五浦美術館
- 10:40-11:20 龍子個展からみた青龍社の活動展開について 木村 拓也
—第五回個展を中心に— 大田区立龍子記念館
- 11:20-12:00 「特異児童作品展」の開催経緯と反響 忠 あゆみ
—1920-30年代における童心主義の展開— 鹿沼市立川上澄生美術館

研究発表(午後 13:15～16:15)

〈分科会1〉 3階「ホール」

- 13:15-13:55 再考 法隆寺献納宝物「海磯鏡」 植松 勇介
- 13:55-14:35 東寺所蔵『真言七祖像』の再検討 加藤 詩乃
—その名号及び行状文の執筆者をめぐらる問題について— 青山学院大学
- (休憩 20分間)
- 14:55-15:35 《彦火々出見尊絵巻》制作の意義に関する一考察 苫名 悠
京都大学
- 15:35-16:15 静岡県指定文化財「富士参詣曼荼羅」の特質と機能 久野 華歩
学習院大学

〈分科会2〉 3階「国際会議室」

- 13:15-13:55 カルロ・カッラの形而上絵画におけるフォルムの探究 池野 絢子
京都造形芸術大学
- 13:55-14:35 ギュスターヴ・ジェフロワ計画によるタピスリー連作「フランスの諸地域 岡坂 桜子
と諸都市」—アドルフ・ヴィレットに基づく《パリ万歳》を中心に— 東京藝術大学
- (休憩 20分間)

- 14:55-15:35 フランス第三共和政の美術行政と芸術
—ジュール・ダルーによる《共和国の勝利》を例として— 安藤 智子
清泉女子大学
- 15:35-16:15 レイモン・デュシャン＝ヴィヨンの作品における身体像の展開と機械
のイメージ、1913年-1918年 松井 裕美
名古屋大学

『美術史』論文賞表彰式 (16:30~16:50) 3階「ホール」

総会 (16:50~17:30) 3階「ホール」

5月28日(土) 午前：筑波大学大学会館；午後：つくば国際会議場

午前受付 08:45~ 筑波大学大学会館 3階「ホワイエ」

研究発表 (09:30~12:25)

〈分科会1〉 3階「ホール」

- 09:30-10:10 木村兼葎堂筆「兼葎堂雅集図」の史的意義
—18世紀後半の日韓における日本文人の表象— 朴 晟希
東京大学
- 10:10-10:50 「常陸名所図屏風」に描かれた景観とその表現意識
—近世名所図屏風の系譜に照らして— 猪岡 萌菜
千葉大学
- (休憩 15分間)
- 11:05-11:45 円山応挙の画業再考 —原在中との比較による— 村上 敬
日本学術振興会/関西大学
- 11:45-12:25 蕭白画と文芸 —鷹と動物を中心に— 波瀬山 祥子
大阪大学

〈分科会2〉 3階「国際会議室」

- 09:30-10:10 リチャード・セラの最初期屋外彫刻 —1970年東京ビエンナーレ
「人間と物質」展出品作品《環で囲む—底板 (ヘクサグラム)》
To Encircle: Base Plate (Hexagram)— 大前 美由希
慶應義塾大学
- 10:10-10:50 パーネット・ニューマンの1960年代後半における自己の再定位
—財団所蔵書簡の分析を通じて— 吉田 侑季
ライス大学
- (休憩 15分間)
- 11:05-11:45 敦煌における五代時期の仏画制作をめぐって
—日本所在の10世紀敦煌画の位置付け— 田林 啓
白鶴美術館
- 11:45-12:25 カーピシー派ガンダラ彫刻の再検討
—獅子座の形式分類をてがかりに— 上原 永子
名古屋大学

午後受付 13:30～ つくば国際会議場 2階「大ホール入口前ロビー」

当番機関企画 (14:30～17:30) 2階「大ホール」

シンポジウム「礼拝空間—超越者と対峙する場の創造—」

パネリスト 木俣元一 名古屋大学 + 喜多崎親 成城大学 + 長岡龍作 東北大学 + 守屋正彦 筑波大学

司会・進行 長田年弘 筑波大学

- | | | |
|-------------|---|-------|
| 14:30-14:45 | 趣旨説明 | 長田 年弘 |
| 14:45-15:10 | ゴシック聖堂の展示プログラム | 木俣 元一 |
| 15:10-15:35 | 機能する様式
—19世紀パリのサン＝ヴァンサン＝ド＝ポール聖堂を中心に— | 喜多崎 親 |
| 15:45-16:10 | 仏教の礼拝空間—超越者との交感と美術— | 長岡 龍作 |
| 16:10-16:35 | 儀礼空間の表象—日本の孔子像の変遷について— | 守屋 正彦 |

懇親会 (18:00～20:00) 1階「大会議室 101+102」

5月29日(日) つくば国際会議場 受付 09:00～ 2階「大ホール入口前ロビー」

研究発表 (10:00～12:00)

〈分科会1〉 2階「大ホール」

- | | | |
|-------------|---|----------------|
| 10:00-10:40 | ティツィアーノ作ヴェネツィア旧サン・ニコロ・デイ・フラァリ聖堂
祭壇画—図像変化についての考察— | 平松 直
神戸大学 |
| 10:40-11:20 | ピントリッキオの円形聖母子画におけるトスカーナ地域伝統の受容 | 永井裕子
東京大学 |
| 11:20-12:00 | ヴェルサイユ宮殿鏡の間
—ドーマー窓を中心とした設計プロセスの再検討— | 米村友希
慶應義塾大学 |

〈分科会2〉 2階「中ホール 200」

- | | | |
|-------------|---|------------------|
| 10:00-10:40 | 18世紀フランスの軟質磁器の技術的・様式的変遷とその背景への試論
—中国・日本陶磁、イラン陶器との関連性の視点から— | 長久智子
愛知県陶磁美術館 |
| 10:40-11:20 | 柿右衛門様式研究
—延宝期における肥前磁器の文様表現について— | 松浦里彩
國學院大學 |
| 11:20-12:00 | 天明釜再考—その造形および編年を中心に— | 平 竜次
浅草寺 |

研究発表 (13:15~16:55*)

*分科会 2 は 16:15 まで

〈分科会1〉	2階「大ホール」	
13:15-13:55	「異」なる功臣 —「夷酋列像」の制作と受容—	春木晶子 北海道博物館
13:55-14:35	浮世絵にみる母と子の図像 —喜多川歌麿と寛政期の出版統制を中心に—	洲脇朝佳 國學院大學
(休憩 20 分間)		
14:55-15:35	歌川国貞の初期画業について —豊国門下内での代筆問題に関連して—	兼松藍子 早稲田大学
15:35-16:15	谷文晁筆「東海道勝景」(永青文庫蔵)の制作について	中村真菜美 大阪大学
16:15-16:55	維摩と文殊 —河鍋暁斎筆「大和美人図屏風」に込められた寓意—	曾田めぐみ 日本学術振興会/東京大学
〈分科会2〉	2階「中ホール 200」	
13:15-13:55	エドゥアール=ジョセフ・ダンタン《人体からの型取り》について —「芸術家のアトリエ」における「型取り」とその言説—	請田義人 東京大学
13:55-14:35	エゴン・シーレの肖像画にみる身振り —その生成過程と意図について—	福間加代子 京都大学
(休憩 20 分間)		
14:55-15:35	金山明の電動機器による描画 —具体美術協会におけるその意義—	加藤瑞穂 大阪大学総合学術博物館
15:35-16:15	イサム・ノグチ作《死(リンチされた人体)》に見る人種差別へのま なざし	内山尚子 お茶の水女子大学